

# 岡谷市議会 経済建設委員会 行政視察報告

## 【総体事項】

1. 視察日程：平成23年11月14日（月）～17日（木）
2. 調査事項（視察先）
  - （1）やすらぎとうるおいのある歩道事業（鹿児島県 南九州市）
  - （2）産業遺産の保存・活用について（鹿児島県 鹿児島市）
  - （3）B級グルメの聖地（まち）久留米事業（市街地活性化の取り組み）について  
（福岡県 久留米市）
  - （4）大宰府の景観と歴史のまちづくり（福岡県 太宰府市）
3. 視察参加委員

委員長	八木	敏郎
副委員長	武井	茂夫
委員	三沢	一友
委員	渡辺	太郎

## 【視察地毎の報告】

### 1. 調査事項

やすらぎと潤いのある歩道整備事業について（鹿児島県南九州市）

人口：39,636人 面積：357.85km<sup>2</sup>

（視察事項）

中心市街地を走る懐かしい町並みを再現した道路、空き地、空き家の活用による町並み整備。

歴史的価値のある武家屋敷群を活用した景観の保全に努めた街路事業と観光への利活用について視察を行った。

2. 視察日時 平成23年11月14日（月）13:30～15:30

### 3. 参加者所感

- 緑の自然に囲まれた温暖な気候のまちであった。観光を施策の中心に、知覧特攻会館や島津藩政時代の武家屋敷群のある知覧地域を軸としての整備が川辺、穎娃地域も含めての全市的なルートを模索している。
- 「薩摩の小京都」知覧町の歴史と景観を生かした街づくりは、町並みの整備にあたり歴史的遺産である武家屋敷群を背景として知覧町の街路事業においては、その歴史と建造物等に十分配慮して、修景や景観の保全に努められていた。
- 古い町並みを生かし、計画的に整備が行われていた。民、官が共に重要伝統的建物を維持管理し、観光資源としての価値を守っていると感じた。
- 温暖な気候のため、市の木である茶の木を生垣に利用していることにも目についた。
- 市職員に案内され、武家屋敷通り線を歩いて武家屋敷に立ち寄ったが、庭園の植木は当時からのもので、周囲との景観とマッチして手入れが行き届いていた。
- 平日だというのに、観光客も多く永久平和を希求する知覧特攻平和会館との結びつきを強く感じた。
- 岡谷市は、あるき太郎をモチーフにウォーキングコースを設置しているが、やすらぎとうるおいのある歩道事業の視点は極めて重要。安心して歩ける歩道の確保から始めないといけない。

近代化という言葉は、古いものを破壊して新しいものを造るというイメージがあるが、古い建物や町並みを大切にしまちづくりにこそ新しいものを感じる。歴史と文化を大切にしてきたまちは魅力的であり、集客力がある。現代における近代化の意味は以前とは違うのでしょう。

近代化産業遺産群とシルクの歴史を今後どのように展開していくのか、魅力ある岡谷市を構築していく上で大変重要である。

## 【視察地毎の報告】

### 1. 調査事項

産業遺産の保存・活用について（鹿児島県鹿児島市）

人口：607,357人 面積：547.06 km<sup>2</sup>

（視察事項）

薩摩藩の工業群跡等の産業遺産群が世界遺産の暫定リストに記載され、登録に向けての保存、活用を図るための計画策定に向けた取り組みについて視察を行った。

2. 視察日時 平成23年11月15日（火）9：30～11：30

### 3. 参加者所感

- 九州・山口の近代化遺産群は世界遺産登録を目指しており、紹介するパンフレットも「いまのニッポンはどこから始まったのですか」のタイトルで始まり、「ものづくりの心」「鉄は文明開化の塊なり」「炭鉱は都市をつくった」という言葉が並び、関係する7県12市の都市が遺産群を構成している。規模や内容も壮大な財産である。遠くは静岡県伊豆の国市の韮山反射炉、岩手県釜石市の橋野鉱山と製鉄遺跡も含まれる。
- 鎖国の中、外国人の力を借りずに行った産業であり、日本の近代化を推し進めた取り組みは価値がある。維持管理は民間企業がきちんと管理している。将来的にはボランティアにも期待したい。
- 鹿児島市の構成資産候補は、旧集成館（史跡）、旧集成館機械工場（重要文化財）、旧鹿児島紡績所技師館（史跡、重要文化財）祇園之洲砲台跡などがある。「集成館の先駆的工場群」等の視察を行ったが、手入れが行き届いており、世界遺産登録への意気込みが感じられた。岡谷市のシルクを中心とした近代化遺産の保存はまだ緒についたばかりであるが、スケールの違いはあっても課題は同じであり、夢は大きいと思っている。
- 技術という文化は時代のニーズや産業の発展と共に進化変容し、今後も進化する。産業は市民の営みの歴史であり、その生活文化や知恵と情熱が岡谷の繁栄を支えてきた原動力である。  
先日、旧農業生物資源研究所の活用構想が示され、「新しいシルク文化を創造・発信する施設」の考えが示されたが、単なる遺産に終わることなく、現役稼動を模索し未来へ向かって進んでいく視点は大いに参考にするべきである。

## 【視察地毎の報告】

### 1. 調査事項

B級グルメの聖地（まち）久留米事業（市街地活性化の取り組み）について（福岡県久留米市）

人口：303,069人      面積：229.84km<sup>2</sup>

（視察事項）

久留米の焼きとり、とんこつラーメン、餃子、筑後うどんなどを生かしたB級グルメの町おこしを行っている。九州B-1グランプリを行い、たくさんの人を集め、まちづくりにつなげている取り組みや、空き店舗利用の起業家育成事業や大学と提携した空き店舗利用事業について視察を行った。

2. 視察日時      平成23年11月16日（水）9：30～11：30

### 3. 参加者所感

- 動員力の高いイベントを定着させ地域活性化に寄与している。食による新たな地域おこしモデルとして、地域主体、市民主体の都市型まちづくりを進め、全国への情報発信も含めて成果を上げている。
- 平成20年9月、「B-1グランプリ in 久留米」の開催を機に、久留米市は全国に類のない多彩なご当地グルメと豊かな食文化を持つまちであることから、全国に向けて「B級グルメの聖地（まち）久留米」宣言し、発信した。これは、近年のグルメ志向から、「久留米ラーメン」、「久留米焼きとり」、「筑後うどん」など「三大B級グルメ」を維持し続けている誇りと自信があると感じた。
- 全市民的協力もさることながら、食文化の掘り起こし継承に熱意を感じた。岡谷市も「うなぎのまち岡谷」と近年名をはせてきたが、スケールの違いをまざまざと感じた。
- B級グルメでまちおこし団体連絡協議会の会長は、「B級グルメが成功するポイントは、製品、場所、価格、宣伝の4つがあるかどうかである」と言っている。まず名物になるものがなければ始まらない。それを提供する店があるのか。しかも安い価格で食べられるのか。また、ただ地元の人知っているだけでは埋もれてしまうので宣伝が必要になる。宣伝がうまくできれば、ブランド化が促進されて売れるようになると思う。さらに核となるマンパワーが重要でその人が信念を持って半ば強引に途切れないように活動を続けていくことが成功の秘訣である。実施する人も活動や内容が楽しくないと人は集まらない。B-1グランプリはグルメのイベントだと考えられているが、実はまちのPRの場でもあると思う。

岡谷市も岡谷ブランドの発掘等に取り組んでいるが成果が上がることを期待している。

- 空き店舗を利用した活性化策では、改装費の50%を補助するもの他、高齢者を支援する支援センターを設ける等、中心的商店街の活性化にも力を入れていた。

## 【視察地毎の報告】

### 1. 調査事項

大宰府の景観と歴史のまちづくりについて（福岡県太宰府市）

人口：70,540人 面積：29.58km<sup>2</sup>

（視察事項）

「歴史とみどり豊かな文化のまち」を将来像に掲げ、歴史と文化を身近に感じることのできるまちづくりに取り組んでいる。

その一環となる景観まちづくりの取り組みとして、平成22年12月に景観まちづくり計画を策定し、また、文化遺産によるまちづくりの取り組みとしては、大宰府市民遺産活用推進計画の一環として、第1回太宰府市景観市民遺産会議を開催し、4件の太宰府市民遺産が誕生した。

さらに、歴史まちづくり法（地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律）に基づく歴史的風致維持向上計画を策定し、歴史的建造物の修理、緑地の整備等、歴史的風致を維持、向上させるための事業をおこなっており、「百年後も誇りに思える美しいまち・大宰府」を目指した維持的なまちづくりの取り組みの視察を行った。

2. 視察日時 平成23年11月17日（木）9：30～11：30

### 3. 参加者所感

- 特に印象に残ったのは、歴史的風致維持管理向上計画である。重点区域内の歴史的建造物の修理、歴史的通りのサイン整備、四王寺山周辺の緑地の整備を行い、良好な景観や文化遺産を守り育てる取り組みである。天満宮安楽寺と国・県の史跡指定地区（市域の約15%）が対象地域となるが、建物等の改修は、単に昔に戻すのではなく、現代に使われている風致にマッチしたもので行うとしている。

歴史と文化を守る取り組みに驚いたが、観光客数約700万人という実情を聞けば、納得できるものがあった。700万人のうち200万人は正月三が日の人数というのも驚いた。

担当の職員から「史跡貧乏」という言葉があったが、収入確保のための努力がまちの存続に係わる問題であるということが特に印象的だった。

- 市の15%が史跡指定になっている。土産物店は、観光客の多さからそれなりの収益があるようだが、観光客は、宿泊に隣の福岡市を利用するとのこと、経済効果は少ない。「史跡や緑に恵まれた福岡都市圏の住宅都市」として発展している。
- 太宰府市の景観まちづくりの将来像として、平成22年12月景観まちづくり計画を策定した。大きくは①大宰府市民遺産活用推進計画、②太宰府市景観ま

ちづくり計画(太宰府市景観計画)、③太宰府市歴史的風致維持向上計画があり、その中心にこの3つの計画を動かしていく景観・市民遺産会議がある。景観・市民遺産会議は、市民、事業者、行政の協働組織である。史跡の多いまちだけに、新住居の建築基準も屋根、壁などの色彩基準、緑化基準、植木におすすめ樹種があるなど、若干ハードさがある。

緑と史跡を生かして、さらに100年後の大宰府を見据えて、これを遂行しようとする行政の努力と市民と事業者の協力・協働は大変なものだと推察される。

- 歴史遺産や史跡を維持するには、それなりの予算が必要となる。歴史と文化を大切にし、いかに収入の確保をするかが大切である。そうした点からも、近代化産業遺産群の活用が今後ますます重要である。ただ、岡谷市は工業を中心としたまちづくりが基盤になっているので大いに助かっている面がある。